

上牧町「非核・平和都市宣言のまち」推進
戦後80年・平和祈念特別企画Ⅳ

【背景写真】カトリック浦上教会(浦上天主堂)

朗読劇

郷音 長崎の鐘

題字 落合清麗

原作 永井隆 「長崎の鐘」 「この子を残して」 ほか

脚本・演出 高木真之

昭和20年8月9日午前11時2分
長崎 浦上で何があったか…。
戦後80年 次世代に伝えたい

永井隆博士が残した
“愛”と“平和”へのメッセージ

戦争の悲惨さ、命と平和の尊さを訴える

万感胸に迫る朗読劇。

町職員が朗読を勤めます。



8/8(金) ▶ 8/9(土) 8日(金) 15:00 開演 (開場は各開演の30分前)
9日(土) 11:00 開演 (全席自由席) 手話通訳あり

入場無料

上牧町文化センター ペガサスホール (奈良県北葛城郡上牧町大字上牧3241番地)

☎0745-78-9900 9:00~17:00 (毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)を除く)

協力 長崎市永井隆記念館、一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会

後援 長崎市、公益財団法人長崎平和推進協会、上牧町教育委員会、奈良県遺族会、上牧町遺族会

朝日新聞奈良総局、産経新聞社、奈良新聞社、奈良テレビ放送、毎日新聞奈良支局、読売新聞奈良支局 (50音順)

問合先 上牧町秘書人事課 ☎0745-76-2501 8:30~17:15 (土、日、祝日を除く)



令和4年度 朗読劇「朝の来ない海 ー学童疎開船 対馬丸の遺言ー」より



令和5年度 朗読劇 特攻隊悲話「最期の戀文 ー会いたい 話したいー」より



令和6年度 朗読劇「帳の下りない夜 ー大阪大空襲ー」より

なが い たかし
永井 隆 医学博士

永井隆は1908年島根県生まれ。長崎医科大学を首席で卒業後、耳の病気で内科医を断念し、放射線医学の道へ。二度の従軍を経て長崎医大助教授・医学博士となるも、1945年6月には放射線被曝で白血病を発症、「余命3年」と診断されました。その2ヶ月後の8月9日、長崎で原爆に被爆。重傷を負いながらも2ヶ月間被災者救護に尽力しました。その後、病床につきながらも執筆活動続け、『長崎の鐘』など17冊の著書を出版し、恒久平和の実現を広く訴え、著作収入の多くを長崎復興や教会再建、子どもたちのために寄付。これらの功績が称えられ、1949年には長崎市初の名誉市民、1950年には国家表彰を受けました。

1951年5月1日、余命宣告から6年後に43歳で死去。



白血病の悪化により床に臥し、病床から原子病の研究と執筆活動に入る。



床に臥した永井隆氏が、病床から原子病の研究と執筆活動を行い、数々の名作を生んだ如己堂の室内。



三ツ山の救護所で自身も重傷を負いながらも被災者救護に奔走する永井隆氏

(写真提供 長崎市永井隆記念館)

スタッフ

制 作 中 岡 篤
劇 中 歌 「長崎の鐘」
作 曲 古 関 裕 而
作 詞 サトウハチロー
P f / 編 曲 大 島 忠 則
オカリナ 森 田 愛 華
子 役 指 導 神 田 志 保
制 作 事 務 入 江 直 哉
運 営 竹 田 尚 平

舞 台 監 督 高 橋 崇 徳
題 字 落 合 清 麗
技 術 ペガサスホールボランティアスタッフの会
撮 影 辻 本 勝 彦
手 話 通 訳 奈良県聴覚障害者支援センター
衣 装 松 竹 衣 裳
森 津 妙 子
監 修 永 井 徳 三 郎 (長崎市永井隆記念館長)

アクセス

バスでお越しのかた

- ・ JR王寺駅(南口)より奈良交通バス「五位堂駅」行き・「服部記念病院」行き・「上牧出合」行きで、「上牧町文化センター」バス停下車。
- ・ 近鉄五位堂駅より奈良交通バス「王寺駅」行きで、「上牧町文化センター」バス停下車。

- ・ 掲載の写真と朗読劇の配役は異なる場合があります。
- ・ 諸般の都合により、一部内容が変更になる場合があります。また、出演者の休演代演の節はご了承ください。
- ・ 荒天または荒天が予想される場合は、中止または内容を変更することがあります。
- ・ 内容の変更や中止する場合は町ホームページでのお知らせをもって発表にかえさせていただきます。
- ・ 会場駐車場には限りがありますので、公共交通機関のご利用をお願いします。